

今年から選挙権が十八歳に引き下げられ、私たち高校生も選挙権を持つ人が出てきました。そのため学校では三年生が模擬投票を体験しました。まず、模擬投票の前に投票の手順や近年の投票状況などの説明を受けました。年代別での投票率は、特に若い世代の投票率が年々低下しているそうです。その理由は、「政治にあまり興味がない・実感がわからない」「自分一人が投票に行かなくても何も変わらない」「他の用事がある」などとありました。私たち高校生から見ても、たしかにそうだなと思いました。特に政治に興味がないという意見に共感していました。模擬投票では一人一人投票を行い、投票の流れや雰囲気をもっとなくつかむことができました。

そして、七月になって参議院議員選挙がありました。私は十八歳になっていたのものでその選挙に参加しました。選挙会場はとても静かでとても緊張した雰囲気で、模擬投票と全く違っており、これが本物の選挙なんだと実感しました。私はこの選挙に向けて何もわからないままで行くのはあまり良くないと思ったので、テレビなどで候補者がどんな社会にしたいか、などの情報を得ようと思いました。しかし、実際に調べてみると、分からない言葉が多かったです。加えて、候補者が多く、それぞれの意見の違いが理解できませんでした。私は選挙を甘く考えていたのだなと思い知らされました。実際に投票する時はこの一票は入れたら、もう戻せないと考えると少し緊張しました。また、投票は候補者の名前を投票する場合と模擬ではなかった党の名前を書いて投票する場合があったので、とまどってしまいました。

この選挙を通して、私は普段の勉強が大切なんだと実感しました。公民で選挙や政治のことを学んでいるから、単なる暗記ではなく理解して少しでも社会のことを知っていくことが皆がよりよい生活をおくるために必要なことだと思いました。だから、次回からの選挙ではしっかり理解して自分が本当にいいと思った人に投票したいです。また、私は勉強を怠っていたこともありますが、社会の勉強やニュース、新聞を見るなどして世の中の動きを学ぶ機会を増やして、高校生を含む若年層の人々が選挙に関心を持たなければいけないと思いました。